



アンチスティグマ活動の広がり：精神医療の現場を越えて

コーディネーター 秋山 剛, 鈴木 友理子

精神障害に関する知識の普及・啓発は、精神保健の改革ビジョンの一つの柱であり、これまでにわが国でも世界精神医学会(WPA)による世界的なアンチスティグマキャンペーンに参加してきた。これらの経験やエビデンスから、アンチスティグマ活動を効果的なものとするためには、一般市民を対象とした大規模なキャンペーンのみならず、当事者との個人的な関わり合いを組み合わせることが重要であることが指摘されてきている。

これまでの精神障害に対するアンチスティグマ活動は精神保健医療等の専門家らによる報告が多かったが、近年では医療以外の現場でも、それぞれの現場や持ち味を生かした活動が行われてきている。特に、当事者の主体的活動や、専門家らがそれに協働する活動も増えてきている。そこで本シンポジウムでは、精神障害当事者やその協働者を演者として迎えて、各領域における取り組みをアンチスティグマの視点で紹介した。

シンポジストとして、精神障害をもつ人びとのフットサルチームの運営や試合参加を通じた活動

について大阪精神医学研究所、新阿武山病院の高谷義信氏そして高槻精神障害者スポーツクラブの当事者の方、当事者と企業に働きかける就労支援について東北福祉大学せんだんホスピタルS-ACTチームの梁田英磨氏、精神障害をもつ人びとが自ら企画・運営する出版事業について、地域精神保健福祉機構(COMHBO)の丹羽大輔氏、地域の雇用者の精神障害の理解を促し、そして、プライマリケア医としてメンタルヘルスの問題に取り組んでいる札幌医科大学地域医療総合医学講座の寺田豊氏からそれぞれの活動の報告、提言があった。

精神科医は診察室で患者の症状、病気に関心を向けてしまうが、病気以外のその人の生活、考えかた、強みを見ていくことが必要である。病気の経験による内在化された当事者の自己に向けられた偏見としてセルフスティグマが論じられているが、当事者、支援者、精神科医師それぞれがもつ「内なる偏見」について気付かせてくれるセッションであった。

第105回日本精神神経学会総会=会期：2009年8月21～23日、会場：神戸国際会議場・神戸商工会議所・クオリティホテル神戸・ポートピアホテル

総会基本テーマ：わが国精神医学のめざす地平、坂の上の雲

シンポジウム アンチスティグマ活動の広がり：精神医療の現場を越えて 座長：秋山 剛 (NTT 東日本関東病院精神神経科)、鈴木友理子 (国立精神・神経センター精神保健研究所成人精神保健部)